

国際交流

1997年 9 月30日創刊

2025年 3 月31日発行(第47号)

二松学舎大学国際交流センター

〒102-8336東京都千代田区三番町6-16

Tel : 03-3261-5751

◆目 次◆

①2024年度海外留学の報告	1
②二松学舎大学と海外の大学との協定締結	
サンフランシスコ州立大学(アメリカ)	1
建国大学校(韓国)	1
③2024年度 派遣留学修了報告	
文学部4年 山下 欧雅(中国 北京大学)	2
文学部4年 藤井 哲也(台湾 中国文化大学)	3
文学部2年 関口 樹(韓国 成均館大学校)	4
④2024年度短期海外語学研修(英語・中国語・韓国語)報告	
アメリカ研修参加学生(サンフランシスコ州立大学) 富阪 朝葉	6
オーストラリア研修参加学生(サザンクロス大学) 猪瀬 亮士	6
マレーシア研修参加学生(アジアパシフィック大学) 下田 智裕	7
マレーシア研修参加学生(アジアパシフィック大学) 鈴木 水彩	8
台湾研修参加学生(国立台湾師範大学) 大住 菜摘	9
韓国研修参加学生(建国大学校) 林 七咲	9

韓国研修参加学生(高麗大学校) 烏田 ゆり	10
⑤2024年度 国際交流の会および懇親会の実施報告	11
⑥2024年度 日本語・日本学特別プログラムと国際日本学特別プログラム修了報告	
日本語・日本学特別プログラム報告 嘉興大学 呉 沢思	11
日本語・日本学特別プログラム報告 浙江越秀外国语学院 邵 康軒	12
日本語・日本学特別プログラム報告 浙大城市学院 嚴 楽楽	12
国際日本学特別プログラム報告 山東财经大学 劉 路	13
⑦2024年度 交換留学生報告	
リール大学(フランス) ブルネル ネモ	14
ボルドーモンテーニュ大学(フランス) ガボリオ デイラン	14
浙江工商大学(中国) 董 飛洋	15
中国文化大学(台湾) 呉 佳穎	15
成均館大学校(韓国) 尹 智雅	16
⑧国際交流センターからのお知らせ	16

2024年度 海外留学の報告

海外渡航が完全に再開された2024年度には、新たな大学も含め、多くの大学と交流を行いました。

2024年度に本学学生を派遣した海外の大学：サンフランシスコ州立大学(アメリカ)、バッキンガム大学(英国)、サザンクロス大学(オーストラリア)、アジアパシフィック大学(マレーシア)、北京大学、(中国)、中国文化大学(台湾)、国立台湾師範大学(台湾)、成均館大学校、高麗大学校および建国大学校(韓国)。

2024年度に外国人留学生を受け入れた海外の協定大学：ボルドーモンテーニュ大学およびリール大学(フランス)、中国文化大学および銘伝大学(台湾)、成均館大学校(韓国)。中国の大学からの受入れは以下の大学：浙江工商大学、周口師範学院、嘉興大学、浙江越秀外国语学院、浙江大学寧波理工学院、浙江财经大学、浙江财经大学東方学院、河北民族師範学院、四川外国语学院、紹興文理学院、聊城大学、浙大城市学院、温州大学、江西師範大学、山東财经大学。

二松学舎大学と海外の大学との協定締結について

本学として初めて、アメリカの大学であるサンフランシスコ州立大学と海外交流協定を締結いたしました。これにより、本学から主要な英語圏であるアメリカ、英国、オーストラリア、カナダへの派遣留学が可能となりました。さらに、派遣先として特に学生から人気の高い韓国においても、新たに建国大学校と海外交流協定を締結いたしました。



サンフランシスコ州立大学(アメリカ)

23大学あるカリフォルニア州立大学群のひとつで、キャンパスは文化と芸術の街サンフランシスコに位置している。アメリカ西部の留学生の多い大学のひとつで、さまざまな国籍の学生が在籍している。

2024年度 派遣留学修了報告



中国 北京大学

文学部 中国文学科 4年
山下 欧雅

1. 留学を終えた感想

北京大学での一年間は私にとって非常に貴重な経験となりました。学業面では、中国語の習得が大きな成果でした。特に、毎日の授業とクラスメイトや中国人の友人との会話などにより日常的に中国語を使う習慣が身についたことが一番大きいと思います。また、たくさん旅行に行き、名所遺跡や博物館に訪れたことで、中国文化や歴史への理解を深めることができました。生活面では、言語や文化の違いから生じる困難を乗り越えることで、自立心や問題解決能力が向上したと感じています。さらに、多くの友人と出会い、国際的な人脈を築けたことも大きな収穫です。この留学経験を通じて得た知識やスキルを、今後の学業やキャリアに活かしたいと思います。

2. 留学を決めた理由

留学を決めた理由は、将来ビジネスで中国語を使った仕事を目指しているため、中国語を流暢に話せるようになることが必要だと感じたからです。また、将来の為の人脈作りも理由の一つです。

3. 留学先での学習内容や教育研究活動

留学中の学習内容は非常に充実していました。前期には週5日の中国語の授業があり、精読、口語、ビジネス中国語の3つを履修しました。毎日課題があり、定期的にプレゼンテーションも行いました。授業では発言の機会が多く、自分の中国語力を大いに向上させることができました。後期には国際合作部に所属し、どんな学部 of 授業も選択することができました。私は道教史、中国美術学、マーケティング学、社会心理学を選択しました。これらの授業では、多様な視点から学び、専門知識を深めると共に、幅広い学問分野に触れることができました。特に道教史や中国美術学では、中国の歴史と文化について深く学ぶことができ、マーケティング学や社会心理学では、ビジネスや社会に関する知識を実践的に学びました。

4. 留学先の魅力や出会った人たちとの思い出

中秋節には月餅作りを体験し、伝統的な中国文化に触れる機会もありました。これらの活動を通じて、異なる文化背景を持つ仲間と深い絆を築き、互いの文化や価値観を尊重し合うことの大切さを学びました。これらの思い出は、留学生活をさらに豊かなものにしてくれました。

5. 留学のおすすめポイント

北京大学への留学で一番のおすすめポイントは、向上心が高く優秀な生徒たちと日々を過ごすことで、自分自身の向上心も自然と高まる点です。北京大学は中国のトップ大学の一つであり、世界中から集まる優秀な学生たちが切磋琢磨しています。この環境に身を置くことで、学問に対する真摯な姿勢や高い目標に向かって努力する姿勢を間近で感じることができます。これにより、自分ももっと頑張らなければならないという強い刺激を受け、自己成長を促す大きな原動力となります。

6. 現地での生活について

私の滞在先は北京大学の留学生寮で、ルームメイトは中国人でした。カフェで勉強することも多く、友人たちと互いに学び合いながら有意義な時間を過ごしました。このように、現地での生活は学業だけでなく、友人との交流や観光を通じて、多面的に充実したものとなりました。

7. 留学で成長した点

留学を通じて最も成長した点は、語学力の向上です。最初はリスニングとスピーキングに苦勞し、中国人との



クラスメイトと北京ダック

会話がスムーズにできませんでした。しかし、日々の授業や友人との交流を重ねることで、徐々に理解力が上がり、自信を持って会話できるようになりました。最終的には、自然な会話ができるレベルに達し、中国語でのコミュニケーションに大きな進展が見られました。

8. 留学する前に準備しておけばよかったこと

留学前にもう少しリスニングの勉強をしておくべきだったと感じました。リスニング力が不足していたため、現地での会話に最初は苦労しました。事前にしっかりとリスニングの練習をしておけば、コミュニケーションの壁を早く乗り越えることができ、留学生活がもっと充実したものになったと思います。

9. 留学前の自分に伝えたいこと

事前にもっと情報を収集してから渡航するべき。渡航後最初の一週間は情報不足で支払いなどが難航したから、準備を怠らないようにしよう。

10. 留学を検討している後輩へのアドバイス

留学は間違いなく視野を広げる素晴らしい経験です。異なる文化や価値観に触れることで、自分自身の考え方や感じ方が大きく変わりました。また北京大学では、様々な国から来た学生と交流する機会が多く、彼らのバックグラウンドや視点を知ること、自分自身の視野が広がり新たな視点を得ることができます。留学は決して簡単な道のりではありませんが、それ以上に多くの学びと成長を得ることができます。



台湾 中国文化大学

文学部 中国文学科4年
藤井 哲也

1. 留学を終えた感想

台湾留学を実際にして、この留学が自分の中国語を良くする機会となり、また台湾人と関わり時間を共にするという日本ではあまり経験のできない有意義な時間を過ごすことができたこと。留学でしか味わうことのできない台湾人のお勧めスポットやお勧めな食事処、また台湾の人が自分が感じていた以上に日本のことを理解しようとしていたのと日本に好きなことを見出す、それに目指して努力している姿が見れた。私が以前台湾に行った時より発展していて、西門町という場所では日本のアニメや衣食が揃っていて日本に帰ってきたのではないかと錯覚してしまうほど日本のものが溢

れていた。台湾人の友達はとても優しく、留学生の私を実家や実家に帰った際によく行く場所（遊び場・ご当地グルメなど）に連れて行ってくれて、さらに地元の友達とも関わる機会をくれた。今までで行なった経験の中で一番楽しく、自分のためになった。

2. 留学を決めた目的と理由

高校の時、中国語専攻で授業を行っていた。高校のカリキュラムとして、北京に留学に行けるはずであった。しかし、コロナウイルスによって、留学不可が余儀なくされた。なので、私は大学でも中国語を続け、留学に行きたいと考え実際に中国語留学をしてみたいと思い、留学をすることを決めた。

3. 留学先での学習内容や教育研究活動

先生は温厚な方が多く、仮に自分が分からないところがあった際は気軽に先生に質問しに行くことができる。また、日本人が好きな先生が多く、生徒が日本人と分かった時、色々自分の好きなドラマ・映画・俳優などを教えてくれる。

4. 留学先の魅力や出会った人たちとの思い出

桃園にある水族館に行ったり、六福村という広大な遊園地に行ったり、私の場合は台湾の友達一人一人にその友達のおすそめを聞き、その店に一緒に行ってお飯を食べるというところを行なった。一人一人好きなものが違って面白く、またどれもそれぞれのおいしさがあって食べにいくのが楽しくなった。



友達とレストランにて

5. 留学のおすすめポイント

- ・日本では収集できない台湾人独特の思考を直で知ることができること。
- ・台湾の人がどれだけ日本人・日本を好み、日本のことを調べているかを知ることができる。
- ・自分がどういった人と関わることが好きなのかを知ることができ、自分を見直す機会ともなる。

6. 現地での生活について

大学が山にあるということもあり、敷地がとても広い大学となります。建物も建物の内観もそうですが、寿命だなと感じる点大学の外には美食街という通りがあり、色々な店が展開している。例えば、日本食・韓国料理・タイ料理・ベトナム料理・フランス料理・イタリア料理・台湾料理（鍋物・チャーハン専門店・温野菜弁当店など）、スターバックスなど様々な国の料理があり、食事を楽しむことができます。

7. 留学で成長した点

中国語のリスニング能力が向上したこと。台湾人と会話することができるようになったこと。海外の人の考えを理解するようになった。自分の偏見で海外の人を判断するのではなく、自分で現地調査をし、どのように考えているのかということを知るようにした。そして、自分の考えがいかに愚かで酷いものかを理解することができた。

8. 留学する前に準備しておけばよかったこと

海外の人と触れ合う時間を増やしておくこと。（最初の方、緊張と不安で押し潰されてしまい、勿体無い時間を過ごしてしまい、今ではもっと早く関わるべきだったと感じているから）

9. 留学前の自分に伝えたいこと

いずれ最初の方はどうしても緊張してしまうと思う。だけれど、環境に慣れ友達を作ってしまうと逆に生活を楽しむことができる。だから、まずは友達を作ることから始めると良い。

10. 留学を検討している後輩へのアドバイス

台湾には日本語を勉強している生徒も中にいるので、そういう少し日本語を話せる友達をまずは一人作ることから始めるといいのではないかと思います。そのあと、中国語に触れる時間を増やし、台湾人と中国語で少しずつ会話していく形がベストだと思います。



韓国 成均館大学校

文学部都市文化デザイン学科2年
関口 樹

1. 留学を終えた感想

留学は自分にとって大きな選択でしたが、留学を終えた今、後悔は全くありません。韓国という、これまでとは全く違う環境に身を置いたことで、韓国についてだけでなく、自分自身についても深く知ることができました。この留学を今後に生かせるかどうかは自分次第だと思っています。期待と不安を抱えながら韓国に飛び立った初心を忘れずにこれからも様々なことに挑戦していきたいと思っています。

2. 留学を決めた理由

高校生の時、新型コロナウイルスの影響で、理想通りの学生生活を送ることができませんでした。その経験から、大学に入学したら、やりたいと思っていたことに全力で挑戦しようと決意しました。その中でも、特に海外で勉強し、外国語を話せるようになることは私の大きな目標の一つでした。そのため、自分の可能性を広げるために留学を決めました。

3. 留学先の学び・学習内容

語学堂では単語や文法の学習だけでなく、プレゼンテーションや討論、V-Logの撮影といった課題も行い、実践的な韓国語運用能力を磨くことができました。また、クラスメートは多国籍で、韓国の文化だけでなく、さまざまな国の文化についても学ぶ貴重な経験となりました。

正規の授業では、映像学科の講義を受講しました。映画が現在の形に至るまでの歴史や放送倫理といった基本的な知識から、映像表現を通じて人の感情を哲学的に紐解く内容まで幅広く学びました。さらに、実際にテレビドラマの1話を制作する実習もあり、学んだ理論を活かして創作活動に取り組むことができました。

4. 留学先の魅力や出会った人たちとの思い出

韓国は、大学生として留学するのにとても良い場所だと感じました。その理由の一つは、勉強に対して高い意欲を持つ学生が多いことです。特に、韓国国内でもトップクラスの成均館大学に留学できたことで、向上心あふれる環境に身を置くことができました。その結果、周りの努力する姿に刺激を受け、自分自身の勉強意欲にも火が付いたように思います。

語学堂では、さまざまな国籍や年齢の友人と出会いました。母国語や年齢は異なっても、韓国語を学ぶ仲間としてすぐに打ち解け、留学中は一緒に観光や食事を楽しむなど、思い出深い時間を過ごしました。さらに、今後は日本に旅行に来る彼らを案内する約束もしており、この出会いがこれからも続いていくことを楽しみにしています。

また、日本が好きな韓国人の友人とも出会うことができました。その友人とは、センシティブな政治問題についても率直に意見を交わすことができ、お互いの文化や歴史への理解を深め合う良い機会となりました。また、互いの言語について教え合うことで、さらに交流を深めることができたのも印象的です。

5. 留学のおすすめポイント

海外に実際に身を置くことで、言語や文化を直接体感しながら学べるのは、留学の最大の魅力です。教科書やオンライン学習では得られない生の体験を通じて、より深い理解と実践的なスキルを身につけることができます。

特に、長期留学の魅力は、語学学習だけにとどまらず、自分が学びたい分野を異なる視点で深く学ぶことです。これまで自分が属していた環境とは異なる場所で学ぶことで、新たな発想やアプローチを得られるだけでなく、自分自身の成長も実感できました。

6. 現地での生活について

寮では様々な国の方々と一緒に生活しました。生活価値の違いから不便だったり困ったこともありましたが、その中で共存していく力も身についたし、様々な国の食文化などを身をもって体験することができました。

成均館大学の学生たちの雰囲気に触発されて、講義や語学などの勉強に集中して取り組みました。放課後には友人とカフェで勉強したり、大学の自習室で他の学生と勉強したりしました。試験前には、深夜までやっているカフェに行って3時までコーヒーを飲みながら勉強したりもしました。そのようなカフェにも勉強している人がかなりいて、集中して勉強するのにとても良い雰囲気だったと思います。他の学生たちと切磋琢磨して勉強したこの留学を通して、「勉強」自体が好きになったような気がします。

7. 留学で成長した点

自分から行動する力が身についた点だと思います。派遣留学は長期間海外で生活できますが、だからこそ自分から行動しなければ、多くのことを体験することができません。長くも限定された時間を海外で過ごしたことで

フットワークが軽くなったと感じました。

8. 留学する前に準備しておけばよかったこと

海外に留学して様々な人と交流するということは、交流する人たちにとって自分が日本人代表になるということだと思います。留学中「日本ではどうなの？」という質問を何度も投げかけられました。実際にこの質問を受けて感じたのは、「自分は思ったより日本について知らない」ということです。私はこれまで自分が日本文化が好きで日本に詳しい方だと思っていたのですが、留学して海外からの視点に立ってみると、自分がまだまだ日本に対して無知であることに気が付きました。なので、留学前に準備しておけばよかったと思うことは「日本についてもっとよく知ること」だと思います。

9. 留学前の自分に伝えたいこと

何度も韓国への派遣留学が自分にとって正しい選択だったのか悩みました。ただ、留学を終えた今、留学を後悔する気持ちは全くありません。どんなに大変なことがあって、つらくても、目の前のことだけに集中して取り組みれば大丈夫だと伝えたいです。

10. 留学を検討している後輩へのアドバイス

留学で大切なのは何よりも勇気だと思います。海外で生活する勇気、自分の気持ちをしっかり伝える勇気、外国語を話す勇気…。色々な勇気が必要ですが、まずは留学を決断するという勇気を出してみてください。一歩踏み出すのがとてつもなく怖い瞬間もありますが、踏み出した先は新しいことに満ち溢れた世界です。きっと後悔しないと思います。

11. 自身のプロフィール

私の性格は外交的で人と会話することが好きな性格です。留学ではメディアを専攻し、三年生からは留学を生かしてメディアの観点から韓国や日本観光について学ぼうと考えています。趣味はカメラで写真を撮ることです。



語学堂の修了式

2024年度 短期海外語学研修（英語・中国語・韓国語）報告



アメリカ サンフランシスコ州立大学

文学部 国文学科 1 年
富阪 朝葉

1. 留学を終えた感想

日本語で表現方法が多い言葉(sorry など)の程度の区別が話し方や表情・文脈によって判断されると感じた。よく講義で言われる「コミュニケーションで重要なのは目線などの話す内容以外の要素である」というのは英語圏の人が考えたものだなと思った。公共交通機関に勤めている人が日本に比べてとても自由で面白かった。

2. 留学先での学習内容や教育研究活動

課外活動の説明、数詞の数え方や発音の勉強、サンフランシスコ州立大学に実際に通っているボランティアの生徒と交流（ビンゴゲームやすごろくなど）、英語での経済学や物理学の授業・課外活動（ゴールデンゲートブリッジやピア 39 の観光、SFMoMA やカリフォルニア科学アカデミーなどでの体験学習）

3. 留学先の魅力や出会った人たちとの思い出

サンフランシスコに着いて二日目に、同じ家でホームステイしていたコロンビア人の留学生に電車の乗り方とダウンタウンの案内をしてもらった。あまりうまく英語が話せなかったので、お礼もまともに言えなかったけど、日本のお菓子を渡したら笑顔になってくれて、かわいらしかった。

4. 留学で成長した点

外国人と話すときの余裕ができたと思う。話す内容より、表情や目線などのコミュニケーションが重要であることを実感した。



ゴールデンゲートブリッジにて クラスメイトと



オーストラリア サザンクロス大学

文学部 都市文化デザイン学科 2 年
猪瀬 亮士

1. 留学を終えた感想

留学を通して、私は自分の小ささに気づきました。例えば、オーストラリアの接客はとてもフレンドリーで、仕事というよりもラフな雰囲気接客が行われていて、その自然さにとても魅力を感じました。日本の接客は敬語のイメージですがオーストラリアではフレンドリーでリラックスした接客が心地よく、良い気分になりました。

2. 留学を決めた目的と理由

英語を話せるようになりたいという気持ちが少しあったのと人生経験として海外に行ってみたいという気持ちから今回の留学に行くことを決断しました。

3. 留学先の魅力や出会った人たちとの思い出

ホストファザーとサイクリングに行ったのもいい思い出です。朝 7 時からビーチ沿いをサイクリングして、その後一緒に朝食でチーズトーストを食べたのは最高にいい思い出です。

4. 留学で成長した点

自分は結構シャイで人と話すのがあまり得意な方ではありません。しかし留学してから進んでオーストラリアのひとと会話することが多くなったし英語で会話して会話が続くと嬉しいし自分の自身にも繋がりました。

5. 留学する前に準備しておけばよかったこと

単語力。自分は留学する前も英語の勉強をせずに留学しました。そのため、現地で会話をする時に単語が出てこない、伝えられないという場面が良く出てきました。

6. 留学を検討している後輩へのアドバイス

英語を勉強して留学に行ったら英語力は格段に伸びると思います。留学に行くか迷っているなら絶対に行くべきです。留学に行って後悔することはないです。



マレーシア アジアパシフィック大学

国際政治経済学部 国際政治経済学科 1年

下田 智裕

1. 留学を終えた感想

約1ヶ月の研修期間中は、日常的に英語で会話しなければならないという状況は初めての経験でしたが、とても充実したものになりました。

語学研修の授業は、全体的に参加型で、多くの研修生は文法などはあまり気にせずに話している場面が印象に残っています。また、他国の研修生は躊躇なく先生に質問をしていて、私を含め日本の研修生とは対比的でした。

研修を通じて知り合った日本人はもちろん、外国人の友人をつくることができ、これまでの人生で最高の思い出のひとつを作ることが出来ました。この語学研修に参加して、本当に良かったです。

2. 留学を決めた目的と理由

自分の英語力の未熟さを補い、少しでも準備を整えることを目的として、ちょうど春休みの時期に実施される今回の語学研修に参加することを決意しました。

3. 留学先での学習内容や教育研究活動

今回の語学研修では自分のレベルにあったクラスで授業を受けることができます。

午前中はリーディングとライティングの2時間、午後はリスニングとスピーキングを2時間というカリキュラムでした。

グループワークやゲームなどを何度か行い、その中で同じチームになった他国の研修生と協力する機会がありました。その際、英語のみでコミュニケーションしなければならないため、知っている単語やイディオムをフルに活用して会話する良い経験となりました。

4. 留学先の魅力や出会った人たちとの思い出

Pavilion Bukit Jalil というショッピングモールは、日本にある一般的なショッピングモールの広さの2～3倍以上もあり、その規模には圧倒されました。店舗数も非常に多く、さまざまなジャンルのショップが立ち並び、どれも見応えがありました。

マレーシアの町並みについても印象深い出来事がありました。コインランドリーへ行くためにクラン川にかかっているサロマ橋を渡ると、ツインタワー周辺の都会的な景色から古い町並みへと一変しました。そのコントラストはとても衝撃的で、ツインタワーと古い町の距離がそれほど離れていないのに、ここまで違うものなのかと驚かされました。

5. 留学のおすすめポイント

マレーシアでの語学研修のポイントは、マレー系、中国系、インド系など、多民族が共存する環境で異文化交

流を深めることができることです。APU 大学での語学研修では、さまざまな国からの学生と知り合うことが出来ました。日本以外だと、カザフスタンやロシアからの生徒が多かったのですが、自国の文化と他国の文化の違いに触れる機会なども多くあり、新しいことを色々知ることができてとても面白かったです。

6. 現地での生活について

宿泊先のホテルは4つ星で設備も新しく清潔なので、居心地よく1ヶ月間過ごすことができました。ほかの研修生の方たちとも同じホテルだったので、一緒に出かけやすかったです。

マレーシアは日本より物価は低めでした。特にタクシーが安く、移動するときは、殆どタクシーを利用しました。

7. 留学で成長した点

この語学研修を通じて、外国人と英語で話すことに対する抵抗が以前よりも少なくなりました。

8. 留学する前に準備しておけばよかったこと

自分のボキャブラリーが少なく、グーグル翻訳に頼ってしまったり、自分が知っている英単語だけを使ってコミュニケーションしていたので、思うように流暢に話すことが出来ませんでした。渡航前にもっと自分のボキャブラリーを増やしておけばよかったと思いました。

9. 留学前の自分に伝えたいこと

充実した時間を過ごすために「何を達成したいのか」という語学研修の目標を具体的に考えておこう。

また、ネットの情報などで、マレーシアの治安が悪いんじゃないかって心配しているかもしれない。でも、実際に行ってみたらお店の人たちはとても親切で、雰囲気も良かったからそんなに気にする必要はないよ。心配し過ぎないように！

10. 留学を検討している後輩へのアドバイス

語学研修は、英語力を伸ばすだけでなく、自分自身の成長や視野を広げる絶好のチャンスです。

困ったことがあれば、国際交流センターの皆さんがサポートしてくれるので相談すると良いです！



イスタナネガラにて、研修生仲間と共に



マレーシア アジアパシフィック大学

国際政治経済学部国際政治経済学科2年
鈴木 水彩

1. 留学を終えた感想

教育熱心でフレンドリーな優しい先生方からアカデミックな英語を学べたり、様々な国から来た留学生や同じの日本でも他の大学の留学生とも交流したりすることができました。マレーシアの良さと現実を学べたり、日本の良さを改めて知ることができました。留学をして考え方や価値観が変わったり、コミュニケーション能力を高めることができたりと、素晴らしくとても貴重な経験をするのができ、逆ホームシックになるほど幸せな時間を過ごせました。留学に行くことができて本当に良かったです。

2. 留学を決めた目的と理由

私が留学を決めた目的は多民族国家を学ぶこと、英語力を高めること、成長することです。多民族国家を学びたかった理由は日本よりも民族の数が多い多民族国家の生活がどのような感じか興味があったからです。

3. 留学先の魅力や出会った人たちとの思い出

日常の生活のなかでも大学にあるバスケットコートで試合に交じらせてもらったことや、日本人と日本人以外の友人とカラオケに行って一緒に洋楽を歌ったり、ご飯を食べに行ったこと、観光地で出会った国や年齢が様々な人たちと会話をしたこと、モスクや王宮、テーマパークに行き、マレーシアの文化や環境など様々なものを学び、留学先の大学でできた日本人の友人とお出かけしたりしたことがとても印象に残っています。

4. 留学のおすすめポイント

1つ目はアカデミックな勉強をすることができることです。私が受けた授業はIELTSやアカデミックな英語力を身につけることを意識したものだったので、高度な文の書き方やプレゼンテーションの行い方などを学ぶことができました。

2つ目にクラスメートや現地の人と会話をする事で自分の英語の能力を知ることができ、成長に足りない部分も明確になり、成長することができました。

3つ目に日本ではなかなか出会えない国の人たちとも交流することができることです。

4つ目は多様な文化を学ぶことができることです。留学の時期はラマダンという行事に被ることを事前に学んでいました。

そして最後に日本の良さを学ぶことができることです。日本の治安の良さや時間の正確さのありがたみを知ることができました。みんな寛容的で私自身も自分をのびのびと出せ、自分らしさを知ることができ、言葉では

言い表せないほど素晴らしい経験になりました。マレーシアシックになるほどマレーシアが好きになり、そして留学前よりも海外のことも好きになり、英語を学ぶモチベーションも上がりました。

5. 現地での生活について

研修先の雰囲気は確か100か国の人が多くいるため地球がもう1つ学校にできたような感じで世界を身近に感じられ、お互いの文化を尊重し合っていました。クラスは学生や先生関係なく、とても仲が良く楽しかったです。

6. 留学で成長した点

1つ目は授業で鍛えられた英語力です。

2つ目はコミュニケーション力です。留学初日に買い物で商品の場所がわからず店員さんに質問する機会ができ、勇気を出して聞いてみたところ通じず、次に、何に使うものかをジェスチャーを使いながら再び英語で説明してみました。その経験が人と英語で話すことのハードルを下げ、そこからせっかく留学に来ているのだから英語で積極的にコミュニケーションをとってみようという気持ちになり、少しずつ英語でコミュニケーションをとることが楽しくなって、そのうちもっと英語で人と話したいと思うようになっていました。

3つ目は考え方です。

私は留学するまでは心配性で慎重な性格でなかなか1歩を踏み出すことができませんでした。この留学を応援してくれた人の言葉なのですが「なんでもなんとかなるから」という言葉の意味は全く理解できませんでした。留学生活が始まって最初はやはり不安に飲み込まれていました。しかしそれは時間と慣れ、そして留学中にできた仲間がいる安心感から消えてゆき、いつの間にか困難をどうやって乗り越えるかを考えて工夫することが楽しくなっていました。「なんでもなんとかなる」と思えるようになり、とても自信ができました。留学する前は困難を避けることばかり考えていましたが、留学をしてからは困難をどう工夫して解決するかを考えるようになり、挑戦することが楽しくなり、挑戦する意欲がわいていました。

7. 留学前の自分に伝えたいこと

工夫やたまには流されることでなんでもどうにかな



現地で出会った友達

る。想像で解決せずに実際に挑戦してみることが大事。勇気を出して1歩踏み出して見えた世界は素晴らしかった。経験は成長の糧。宝物。挑戦して本当に良かった。支えてくれた方々に感謝。

8. 留学を検討している後輩へのアドバイス

留学は人生の財産になります。最初は不安が大きいかもしませんが勇気をもって踏み出すと、素晴らしい世界が待っていますし、私は本当に行けてよかったと思っています。苦楽、沢山ありましたがどんなことも工夫すればなんとかなります。自分の気持ちと今この瞬間を大切に楽しんでください！応援しています！



台湾 国立台湾師範大学

国際政治経済学部国際政治経済学科3年
大住 菜摘

1. 留学を終えた感想

台湾の人々は皆親切で優しく、個性豊かな人々との出会いに恵まれ、非常に充実した日々を送ることができました。確かに、発音の難しさや授業の厳しさに苦労することもありましたが、それらを乗り越えたからこそ、中国語能力を大きく向上させることができた実感しています。また、日本人や台湾人、アメリカ人、オーストラリア、トルコなどいろいろな国の仲間たちとの交流を通して、視野が広がり、人間としても大きく成長できたと感じています。参加して本当に良かったと心から思っています。

2. 留学を決めた目的と理由

留学を決めた目的は、中国語の会話能力を向上させるためです。

3. 留学先での学習内容や教育研究活動

留学中の授業は、月曜日から金曜日までの週5日間、午前9時から12時まで中国語の授業が行われ、午後は文化授業や選択制の校外学習に参加するというスケジュール



修了式クラス写真

ルでした。先生やクラスメートは皆優しく、面白い人ばかりだったので、大変さよりも楽しさが圧倒的に勝っていました。活気のある授業と、個性豊かなクラスメートたちのおかげで、毎日楽しく中国語を学ぶことができました。

4. 留学先の魅力や出会った人たちとの思い出

台湾は親日的な人が多く、滞在中、多くの人に親切にいただきました。特に、宿泊していたホテルの近くにあったコインランドリーの方々には、大変お世話になりました。留学期間中、洗濯の仕方はもちろん、台湾のおすすめのお菓子など、様々なことを教えていただきました。

5. 留学のおすすめポイント

まず1つ目に、治安の良さです。

2つ目は、美味しい食べ物が多いことです。台湾は食文化が豊かで、小籠包やタピオカミルクティーなど、日本でも人気のグルメが楽しめます。また、夜市ではB級グルメも堪能でき、食生活が充実します。私のおすすめは魯肉飯です。

6. 現地での生活について

宿泊したホテルは利便性が高く、観光地へのアクセスも良好でした。学校がある日のスケジュールは、朝7時に起床し、7時半からホテルのバイキングで朝食をとりました。8時に部屋に戻って学校の準備をし、8時20分に登校、9時に授業が始まりました。12時に中国語の授業が終わり、午後は文化クラスや校外学習に参加しました。週末は主に観光地を巡って過ごしました。

7. 留学で成長した点

中国語の語学力が向上しただけでなく、コミュニケーション能力が成長したのだと思います。

8. 留学前の自分に伝えたいこと

周りの人みんな優しいからあまり不安にならなくてもいいということも伝えたいです。



韓国 建国大学校

文学部 中国文学科3年
林 七咲

1. 留学を終えた感想

留学を終えて感じたことは、予想以上に自分自身が成長できたということです。最初は言語の壁や新しい環境に対する不安もありましたが、現地での生活を通じて、その不安は次第に自信へと変わっていきました。留学を通じて、困難を乗り越える力や柔軟性、そして自立心を養うことができたと思います。この経験は、これからの人生において大きな財産となる思い



語学学校のクラスの人々と最終日に撮った写真

ます。もし留学を考えている人がいるならば、迷わず挑戦してほしいと強く思います。

2. 留学先の魅力や出会った人たちの思い出

広大なキャンパス内にある美しい池や、賑やかな駅前のデパートや美味しいお店など、生活の質を高める環境が整っています。現地の友達と一緒に訪れたレストランや観光地での楽しい時間は、心に残る貴重な経験となりました。

3. 留学のおすすめポイント

異文化に触れることで視野が広がり、柔軟な考え方が身につきます。さらに、異なる環境での生活は自己成長を促し、問題解決能力や自立心を養う良い機会となります。

4. 現地での生活について

とても快適でした。宿泊先は2人で一部屋を使いましたが、十分な広さがあり、とても綺麗でした。駅からも近く、駅前にはデパートや맛집（美味しいお店）が多く揃っており、留学生にとって理想的な住環境でした。

5. 留学前の自分に伝えたいこと

もっと早く挑戦しておけばよかったと今でも感じています。迷わず一歩踏み出す勇気が大切です。

6. 留学を検討している後輩へのアドバイス

留学は新たな視野を広げ、自己成長をも促す絶好のチャンスです！最初は不安かもしれませんが、その経験は必ず将来の糧になると思います。自分の可能性を信じて、積極的にチャレンジしてみてください。



韓国 高麗大学校

文学部 中国文学科 1年
鳥田 ゆり

1. 留学を終えた感想

高麗大学校への1ヶ月間の短期留学を終え、非常に貴重な経験を得ることができました。授業で学んだ内容を韓国の日常生活で実際に活用することができ、学びがより深く身についたと実感しています。

例えば、カフェやショッピングでの会話、友達との雑談などで、学んだフレーズや単語を積極的に使い、日常の中で言語を生かすことができました。短期的な留学でこれほど多くの経験を得られたことに満足しており、今後は1年の長期留学も検討したいと思っています。1ヵ月間での学びは、1週間の観光では得られない深い体験と理解をもたらしました。異文化に触れ、人々との交流を通じて、知識だけでなく視野も広がり、自己成長を実感しました。

2. 留学先での学習内容や教育研究活動

高麗大学校の授業プログラムでは、最上級のクラスに参加することができ、これまで学んだことがないような難しい慣用句や熟語の使い方を学びました。

3. 留学のおすすめポイント

異文化を直接体験できることだと思います。現地の人々と交流しながら言語を学ぶだけでなく、その国のマナーや文化、国民性を実際に感じるができるのは大きな魅力です。

4. 現地での生活について

現地での生活は、韓国人の家庭でホームステイをしながら1ヶ月間過ごしました。韓国に到着した初日、飛行機とタクシーで酔ってしまい体調が悪くなってしまったのですが、ホストファミリーが温かくサポートしてくれたおかげで、無事に修了することが出来ました。ホストファミリーの親切さとおもてなしに感謝しており、韓国の家庭文化を身近に感じる事ができたとても貴重な体験でした。

5. 留学前の自分に伝えたいこと

失敗を恐れず、焦らず柔軟に過ごすことです。

6. 留学を検討している後輩へのアドバイス

留学は、自分を大きく成長させる素晴らしい経験です。最初は不安や戸惑いを感じることもあるかもしれませんが、異文化に触れることで視野が広がり、柔軟な考え方ができるようになります。大切なのは、失敗を恐れずに新しいことにチャレンジすることです。



ともに学んだクラスメイト

2024年度 国際交流の会および懇親会の実施報告

本学主催の総合的な国際交流行事である「国際交流の会」を、創縁祭の開催にあわせて実施いたしました。当日は、日本の食文化を体験する企画として「たこ焼きパーティー」を開催し、日本人学生がたこ焼きの作り方や焼き方を外国人留学生に説明しながら、共にたこ焼きを楽しむ交流の場となりました。また、行事終了後には、本学留学生と父母会役員、関係教職員、本学学生との懇親会を開催し、親睦を深めるひとときを過ごしました。ピング大会も行われ、会場は大いに盛り上がり、参加者同士の交流が一層深まりました。



2024年度 日本語・日本学特別プログラムと 国際日本学特別プログラム修了報告

入国制限措置の緩和により、外国人留学生の来日が全面的に可能となり、本学では中国の13大学から、総勢36名の留学生を受け入れました。



日本留学一年間の思い出

嘉興大学 呉 沢思

日本の文学部で一年間留学する機会を得ました。この一年間は、私にとって非常に充実した、忘れられない経験となりました。学問の面でも、生活の面でも、日本の文化や考え方に触れることで多くのことを学びました。

まず、春学期に受講した王宝平先生の授業が特に印象に残っています。先生は私たち留学生が日本の文言文に

慣れていないことを考慮し、書き下し文の読み方を丁寧に教えてくださいました。初めは古文のリズムや表現が難しく感じましたが、先生の忍耐強い指導のおかげで少しずつ理解できるようになりました。授業では、古典文学に込められた思想や感情に触れることができ、日本文化の奥深さを感じました。

また、夏休みと冬休みには大阪、京都、奈良、札幌など、さまざまな場所を訪れました。それぞれの地域で異なる風土や人情を体験することができました。大阪ではにぎやかな街の雰囲気や人々の親しみやすさを楽しみました。京都では古い寺社や町並みを巡りながら、日本の歴史や伝統を肌で感じました。奈良では鹿と触れ合い、自然と歴史の調和が印象的でした。札幌では冬の雪景色

と温かい食べ物が心に残り、北海道ならではの文化を味わうことができました。

さらに、この一年間の間、日本のマクドナルドで6ヶ月間アルバイトをしました。この経験は私にとって新しい挑戦であり、多くの学びをもたらしてくれました。最初の頃は日本語が不十分なため、同僚やお客様とのコミュニケーションに苦労しました。時には失敗して、心が折れそうになることもありました。しかし、職場にはとても優しい先輩が何人かいて、いつも私を励ましてくれました。彼らは仕事のやり方を丁寧に教えてくれるだけでなく、私が落ち込んでいる時には「大丈夫、次はうまくいくよ」と声をかけてくれました。そのおかげで、少しずつ仕事にも慣れ、自信を持てるようになりました。この経験を通して、働くことの大変さとやりがい、そして仲間の大切さを実感しました。

日本での生活を通して、時間を守ることの大切さや他人への配慮など、日常生活における価値観の違いを学びました。初めは慣れないことも多かったですが、日本人の友人や先生方、そしてアルバイト先の同僚に助けってもらいながら、少しずつ日本での生活に順応することがで



スカイツリーにて、来日した友人と共に

きました。

この一年間の留学経験を通して、私は日本の文化や文学に対する理解を深めただけでなく、自分自身も成長できたと感じています。この経験をこれからの人生に活かし、さらに学び続けたいと思います。



留学報告書

浙江越秀外国語学院 邵 康軒

今回、二松学舎大学で一年の留學生活を通じて、たくさんなものを勉強しました。日本の大学は中国の大学との違いがたくさんあり、留學生として中国の大学と学習できる科目もかなり違いました。日本の古典や概況についても学ぶこともでき、授業を通じて年賀状や俳句を作ることなどの伝統行事を体験することができました。そんな授業から、自分はずっと日本のことを知ることができました。

日本を知るための授業だけでなく、日本の角度で中国の歴史を見る授業もたくさんありました。以前受けていた中国の視点で自分の国の歴史を学ぶとは違い、他人の視点から自分の国の歴史を勉強することができ、とっても新鮮で面白いと思いました。

そして、今回の留學ではメディアやテクノロジーに関して、中国の大学では学ぶことができないこともあり、文学部の自分にとってはちょっと難しいけれど、それでもとても面白いので、かなりいい経験になりました。

さらに、今回の留學で、日本での生活も体験することができました。個室での一人暮らしと電車での頻繁な移動を体験し、自分の生活にいい経験を付きました。

今回の留學で、いろいろな人から大変お世話になっており、感謝の気持ちを持っている。これからもこの時間から生じた経験を生かし、頑張りたいと思っています。



日本での素晴らしい留學生活

浙大城市学院 嚴 楽楽

日本への留學生活が終わりに近づく中、改めてこの一年を振り返ると、あっという間だったと感じます。

日本に来る前の私は、新しい環境に対して不安でいっ



那須高原にて

ばいでした。言語や文化の違い、そして異国の地で一人で生活する自信がありませんでした。同じ留学プログラムに参加している友人たちに出会えたおかげで、日本での生活は大きく変わりました。私たちは一緒に寮で料理をしたり、困ったことがあれば力を合わせて解決したりしました。友人たちの助けを借りて、私は少しずつ日本の生活に慣れていきました。また、中国語を学びたいという日本人の友人たちとも出会い、彼女たちに中国語を教えながら、日本の文化を教えてもらうことができました。このような交流を通して、日本語力も大きく向上しました。

さらに、留学中にはさまざまな場所を訪れました。例えば、熱海では夏の花火大会を鑑賞し、その美しさに感動しました。長野県の戸隠神社で美しい雪景色を見ることができました。また、大学4年生のゼミ合宿に参加し、栃木県で楽しい時間を過ごしました。これらの素晴らしい経験を通して、多くのことを学び、日本文化への理解を深めることができました。

一方で、1年間の留學生活はとても短く、日本文化のほんの一部しか体験することができなかったと感じています。これからも日本語や日本文化の学びを続け、将来また日本を訪れる機会を自分で作りたいと思っています。



忘れられない思い出

山東財経大学 劉 路

二松学舎大学で交換留学した経験を思い返すと、時の流れの早さを感じずにはいられない。大学時代から日本語を専攻していた私にとって、日本語を学び始めて今年

で7年目になる。日本の学校に行って、日本の雰囲気や日常生活、文化を体験することがずっと私の夢だったので、その機会を与えてくれた二松学舎大学にとっても感謝している。

二松学舎大学での授業で最も印象的だったのは書道の授業で、中国文化と日本文化の切っても切れないつながりを深く理解させられ、その融合に感動した。同時に、先生はとても親切で面白く、授業はとても興味深く、思い出深いものでした。在学中は部活にも短期間参加し、ダンスサークルのメンバーとダンスを練習したり、公演に出演したり、多くの新しい出会いがあって嬉しい。

キャンパス以外では、週末や休日を利用していろいろなところに旅行にも行った。ゴールデンウィークには日光に行き、世界遺産の日光東照宮を体験した。夏休みには四国の香川県に行き、ロマンチックな花火を見た。そして、魯迅の足跡をたどる東北の町を体験するために仙台にも行った。

そして、学校が手配してくれたシェアハウス（国際学生寮）に住み、中国人や日本人だけでなく、韓国人、イギリス人、アメリカ人、オーストラリア人など、たくさんの温かい友人と出会って、友達と素晴らしい友情を保ち、しばしばパーティーを催し、とても楽しい時間を過ごした。

これまでの留学期間を通じて、文化の衝突と融合の衝撃と新しさを体験することができたが、半年という期間はまだまだ短いので、将来また日本に観光や勉強に来る機会があったら、両国の友好交流に貢献できることを願っている。



シェアハウス（国際学生寮）の友達と共に

2024年度 交換留学生報告



留学の日常的日本

リール大学
ブルネル ネモ

留学まで両親と暮らしていた。このように私が2024年に初めて一人暮らしを経験したのはフランスではなく、地球の果てだった。今年は様々な経験ができた。嬉しくなったり、悲しくなったり、緊張したり、驚いたり、感動されたりした。とにかく在留の終わりに私が最も成長し大事な思い出を得た。一方、私の授業の理解はまだ難しいが全部の文化的なコースは結構興味深かった。

私は整理整頓が苦手で準備をすることは少し難しい。したがって、あまり旅をしなかった。東京と関東には色々な面白い所もあるから真面目ではなかった。それに、千代田区から遠く住んでいることと学生の生活のリズムが観光客のように体験させてくれなかったが日々を生き、場所を訪ねるのではなく、人生を訪ねた。最初は休日の時有名な場所を訪れていたが、少しずつ街のランドマークが未知の世界への入り口になっていった。今年は多くの在留の最初のエピソードになるだろうか。そう願いたいんだ。



帝釈天の鐘



留学の感想

ボルドーモンテニュー大学
ガボリオ ディラン

一年間の留学の間にさまざまなことがあった。まずは勉強について、二松学舎大学によって自分の日本語が進化した。留学の初めるとき、私は余り喋れた、その一年間に学生や先生など話していたので、現在に数時間の話しができるようになった。もちろん普通の授業は難しかった、特に試験はできなかった。しかし、これは私の日本語の理解のせいだった。授業が面白かった、阿部和美先生の国際関係が大好きだった。様々なことを習った、はじめから徐々に興味があるので、毎日は楽しかったと思う。大学の外で存分に楽しんだ、友だちとパーティーをした、若者言葉を習った、美味しいレストランへ行った。食堂の値段のおかげで健康食品が食べられた。毎日その一時間以上の通学が疲れた、なぜなら時々朝にベッドの出るときが一番の難しいことであった。

日本の生活が大好きなので毎日毎日面白かった、特にレジデンスによって多くの良い思い出を作った。そこで世界中の人に会ったので地球の社会がちょっとわかる。二松学舎大学は私を変えた、だからありがたいである。



留学生とバディのパーティー



留学報告書

浙江工商大学 董 飛洋

このたび、二松学舎大学で院生として交換留学を経験し、初めて日本の学生生活を体験しました。最初は慣れず戸惑うこともありましたが、日本の授業では自分の意見を発表する機会が多く、日本語の表現力を鍛えることができました。

日本語を伸ばすために、友人とともに中国学の授業ではなく国文学の授業を選びました。そこで、文学分析の理論を学び、発表で実践した現代文学と、中国の大学でなかなか触れるチャンスがなかった古典文学も学ぶことができました。二松の図書館は蔵書が非常に充実しており、私の研究テーマに役立つ本を数十冊借りることができ、学識や見聞を大いに広げることができました。

学習面だけでなく、二松学舎大学の優れた立地条件のおかげで、思いがけない嬉しい経験もできました。交換留学中にインターンシップの仕事を見つけることができたのです。二松学舎大学は東京の中心に位置しており、私のインターン先のオフィスは近くの日本橋にありました。仕事と学業では使う日本語が異なり、実際の日本企



最後の授業の日、先輩・友人と一緒に

業の職場を体験することは私にとってありがたいでした。さらに、コラボできる漫画家とも出会い、私は漫画の翻訳者として共に東京で開催されたコミティアに参加しました。会場で直接持ち込みしたら、編集者たちが私たちの作品を真剣に読んでいる姿を見たとき、これまでにない達成感を覚えました。

帰国が近づいたころ、最後の授業の際に指導先生が私たちのために送別会を開いてくださり、日本人のクラスメートとも授業外で交流する機会を得ました。

この交換留学の機会を得られたことに心から感謝しています。出発前には想像もできなかったほどの貴重な経験でした。



一生忘れない 日本での思い出

中国文化大学 呉 佳穎

留学が始まる前に、元々「留学は半年だけでいいかな」と思ったんですが、結局一年でも全然足りなかったと思います（笑）。

最初学校が始まったばかり、1時間半の通学時間と朝の通勤ラッシュは大変でしたが、電車に乗る時に車外の風景を眺めて、段々慣れました。大学で他の留学生と日本語の授業を受講しました。先生の指導とクラスメートとの練習のおかげで、私は日本語が前より上手になりました！また、日本語の授業だけではなく、学部の授業も受講しました。日本の授業の流れは台湾と大分違いますし、学部の授業ですから沢山の固有名詞がありますので、私にとってこれは大きな挑戦でしたが、色々な知識を学んで、大変勉強になりました。



千鳥ヶ淵での灯ろう流しに参加した

勿論日本での生活は学校だけでは無いです！この一年間で日本のあっちこっちで旅行に行きました。江の島で綺麗な風景を眺め、広島で二戦の事を知り、仙台で美味しい牛タンを食べ、奈良で文化大学の先生と会い、色々な所で旅行できて良かったです！

一番嬉しかったのは沢山友達ができちゃった事です！パディーの日本人友達と文化を交流して、一緒に遊ぶのは最高でした。学生寮のソーシャルレジデンス成田で他の国から来た人と会いました。皆んな一緒に日本語や英語を勉強して、遊びに行って、凄く楽しかったです！友達と約束して、今度は各自の国に遊びに行きます！

この一年間の交換留学で、楽しい事も、悲しい事も、色々な事があって、自分が成長しました。皆んなと一緒に過ごした時間、この思い出は絶対一生忘れません！



日本での交換留学を終えて

成均館大学校 尹 智雅

今回の二松学舎大学での交換留学は5か月間の短い間でしたが、とても楽しく新しい経験であふれる毎日でした。初めての海外生活だったので心配もありましたが、国際交流センターのおかげで無事に日本での生活を始めることができました。

国際交流センターからのガイダンスの日の東京観光はいよいよ始まった東京での生活を実感させてくれました。東京の有名なスポットを観光しながら他の国の学生たちとも初めて話ができて、楽しい思い出になりました。

そして、二松学舎での授業が始まりました。留学生対象の日本語授業が多様であり、日本語の能力をつけることができました。また、この日本語授業では他の国の学生たちと一緒にとるため、各国の文化の違いや色々な考えを聞くことができ、大切な時間になりました。日本語の授業以外にも文学部の授業を受けることができました。その中には、韓国の大学では学べられなかった新しい分野の授業を受けることができてすごく勉強になりました。

一番記憶に残ったことの一つは二松学舎で行われた「コリアン・カフェ」行事に参加したことです。韓国に興味がある日本人の学生との話ができてすごく楽しく有意義な経験になりました。また、新大久保観光も楽しい思い出になりました。日本人の学生と交流し、お互いの国の文化についても話せる大事な時間でした。

他にも、好きな演劇とミュージカルを見に行ったり、友達と東京の色々なところを観光したり多くの経験ができる5か月でした。交換留学に行く決心がつくまでには色々心配もありましたが、今は交換留学を決めたことが私の大学生活の中で最も良い決定だと思います。



新大久保観光

国際交流センターからのお知らせ

二松学舎大学国際交流センターでは、「グローバルシチズンの育成」を目指し、留学、外国語の学び、異文化交流の3つの柱を中心に、1年間さまざまな取り組みを行ってきました。

留学分野では、新たにアメリカ・サンフランシスコ州立大学や韓国・建国大学校と海外協定を締結し、学生の留学先の幅を広げました。外国語の学びでは、イングリッシュ・カフェ（外国語講座）を通じて、実践的な語学力を身につける機会を提供しました。さらに、異文化交流イベントとして「たこ焼きパーティー」や「国際交流懇親会」など、留学生と日本人学生がともに楽しめる企画も実施し、キャンパス内の国際交流を活発に行いました。

これからも学生たちがさまざまな文化や価値観に触れ、国際感覚を養い、世界に目を向けられるような活動を続けてまいります。

国際交流センターについて www.nishogakusha-u.ac.jp/international

◇本誌へのご意見・ご感想をお寄せください。 E-mail: icenter1@nishogakusha-u.ac.jp